

# 三中だより

令和4年度 4月号



令和4年4月8日発行  
荒川区立第三中学校  
(学校通信 No. 1)  
校長 小柴 憲一

## 新たに創りあげる伝統

昨年度の2月の三中だよりで「継承されない伝統もある」と題して、当時の3年生だけが経験していた生徒会行事などのうち、新型コロナウイルス感染拡大により中止となり、今の2・3年生に継承されなかったものがあること、そして来年度は復活させることについて記載しました。

継承されなかった生徒会行事などには、かつてクリPという愛称で馴染まれていた「クリーニングプロジェクト」を始めとして「ゴミゼロ作戦」、汐入小学校・汐入東小学校を訪れて行う「あいさつ運動」、同じく2小を訪れて披露する「3年生の合唱」などがあります。これらは、汐入小学校・汐入東小学校・第三中学校の3校で「小中一貫教育推進校」として推し進められてきた取組であり、汐入地区の保護者・地域の皆様もご覧になっていたものです。そこで小中一貫のために、また地域の活性化のためにも、今年度から再開いたします。

また、本校の合唱は3年生で四部合唱を完成させるなど、高い技能を発表することにより、1・2年生に合唱のモデルを示してきました。しかし2年間、音楽の授業の歌唱についても制限があり、子どもたちは、ほとんど「歌う」ということを経験してきませんでした。今後の感染防止対策でどのような制限があるか分かりませんが、伝統の再構築のため「合唱とはこういうものだ」と3年生が発表できるようになっていく必要があります。

したがって、令和4年度のこれらの取組には3年生による企画・運営力と牽引力が必須となります。過去のやり方などを参考にすることもありますが、それにこだわり続けることのない、新たな発想による新しい「クリP」「ゴミゼロ作戦」「あいさつ運動」「合唱披露」に期待しています。

そのため、これらを重点課題として子どもたちに受けとめてもらうために、昨年度の修了式から今年度の始業式にかけて話した内容を紹介します。

### 令和3年度修了式の話より抜粋

最後に2年生。

1点目として、今年度の後期から、三中の機動力として、三中を動かしていくという自覚をもって生徒会活動を行ってきましたか？専門委員会や中央委員会で強く訴えたりしていくべきことがたくさんあったはずですが、4月からは3年生となり、特に来年度は継承されなかった生徒会行事などに取り組まなければなりませんので、1学期の始業式で新3年生に期待することをお話します。

### 令和4年度1学期始業式の話より

2点目は、修了式でも話しましたが、卒業生から継承されなかった生徒会行事などを新たに創りあげていくことです。例えば、三中では略してクリPと言っていたクリーニングプロジェクト、ゴミゼロ作戦、小学校に行っているあいさつ運動、3年生による小学校における合唱披露を今年度は復活させます。

一番鍵を握るのは、1学期の3年生の企画・運営力と牽引力です。

生徒会長がどの専門委員会にどのような指示を出すのか、あるいはボランティアを募ろうと考えるのかは会長次第ですが、どのような方針であれ、その方針に従って3年生が主導権を握って企画を立案し、学校全体に対して啓発をし、当日には先頭に立って参加者を動かして、新たな伝統を創りあげる思いで取り組んでいってください。

そして2学期には、3年生が残した成果を引き継ぐとともに、問題点を改善して、2年生が中心となって次年度や1年生に継承していく勢いでさらに発展させていってください。

地域の人たちは見えています。

「かつての三中がよみがえった」ではなく「かつての三中を乗り越えた」と評価されるような、新生第三中学校を築き上げていってください。

いずれにしても、今日話した2点については皆さんの自治活動の力が試されています。  
三組も含めて、1年生から3年生までが、「三中を構成する一員である」という誇りをもって、みんなの三中をつくっていきましょう。

## 人の心を傷つけない

昨年度も、1年生から3年生まで全校の子どもたちが「三中生らしく」を目指して、それぞれの発達段階で主体的に自治活動を活性化させたり、授業・給食・清掃・部活動を始めそれぞれの活動時間の区別を明確にしたり、学級・学年・部などの一員として人間関係を円滑に保ったり、ときには結束力を高めたりしてきました。

しかし、わずかではありますが、いずれの集団でも「人を傷つける」という言動があり、それにより悲しんだり落ち込んだり悩んだりしてしまった子どももいました。そのような場合、学校では、まず傷ついてしまった子どもの相談にのったりして、その子どもを守ることに全力を注ぎます。

一方で「人を傷つける」言動をしてしまった子どもの話も聞き、指導すべき点は指導しますが、そのほとんどが、私たち誰もがもっている人間の弱点によりそのような言動に至っていることが分かりました。人は他者より優位な立場になると安心をします。誰かと強く結びつきたいために第三者を利用することがあります。

大人でもそのようなときがあるのですから、子どもでも十分にあり得ます。大切なことは、「自分は人間の弱さに負けてしまった」ということを認められるかどうかなのです。それを認めることができたとき、恥ずかしいという思いを強くもったり、心から深く反省したり、相手に対して謝りたいという思いになれるのです。ここに至ることができるのも、同じく人間がもっている強さなのです。人の心を傷つける言動は許されませんが、このような経験を経て子どもたちはまた一つ成長していくのです。「学校は失敗するところ」と言いますが、それはこういうことを指しています。

保護者の方の中には、このような行為があって学校からの連絡を聞き、「小さいときからあれだけ『人を傷つけてはいけない』と言い聞かせていたのに」という思いから深く落胆された方もいらっしゃいましたが、学校では「行為は許さずとも人格は否定せず」という考えに立って、子どもたちの指導に当たっています。

昨日の入学式では、以下に紹介する式辞を述べましたが、これは新入生だけではなく、参列していた一部の代表の子どもたちを含めて、ライブ配信で視聴していたすべての子どもたちに対して理解してもらいたかった内容です。

### 令和4年度入学式式辞全文

校長の小柴憲一と申します。

159名の新入生みなさん、ご入学おめでとうございます。

思えば、3月31日までは最高学年として小学校のリーダーだった皆さんが、1年生という立場になることに戸惑う人もいるかもしれませんが、今の2年生・3年生も通ってきた道のりで、先輩を見ながら着実に三中生らしくなってきました。特に、3年生に至っては確かに学校を牽引していく組織に成長していますので、皆さんも、2・3年生を見て学んでいってください。

さて、入学にあたり、皆さんに、1点についてだけお話しします。

それは「人の心を傷つけない」ということです。

明日からの数日は緊張感のある生活を送ると思いますが、すぐに三中の生活に慣れてきます。すると、新しい友達ができきます。一方で今までの友達もいます。つまり友達関係が複雑になってくるのです。

皆さんは「人の心を傷つける言動をしてはいけない」ということは分かりきっていることだと思いますが、楽しい雰囲気になるかと思って誰かをからかったり、ある人との距離が近くなるかと思って誰かの悪口を言ったりすることが得てして起こりがちになるものです。それが意図的であろうがなかろうが、思わずやってしまうのが、人間誰もがもっている弱さなのです。

人の心を傷つける行為をしてしまう原因には、そのことにより一時的に優越感に浸れたり、その人を除く集団が楽しくなれたり、団結力が高まったりするのではないかという錯覚があるのです。その錯覚を求めると、

いけないことだと心の中のどこかで思っている、人は人の心を傷つける言動をしてしまうのです。そして、結果的に優越感に浸れるわけでも、集団が楽しくなったり結束力が高まったりするわけでもないのです。

159人いれば、159の個性や特徴があります。それらの中には、強い個性や特徴もあるでしょうし、同級生の皆さんにとっては理解しにくい場合もあるかもしれません。しかし、一人一人の個性や特徴を理解しようとし、「これはこの子の個性なんだ」「こういう特徴のある子なんだ」とまずは受け入れてください。

そのような相手意識をもった姿勢や態度が、「人の心を傷つける言動をしない」ことにつながり、焦って新しい友達を作ろうとしなくても、そのような人には自然と新しい友達が寄ってくるものなのです。なぜなら、それが人としての魅力だからです。

これからの学校生活では、人間の弱さに負けて、人の心を傷つけてしまうことのないようにしてください。そして、万が一、人間の弱さに負けて、人の心を傷つけることをしたり言ったりしてしまった場合は、やってしまった自分の過ちを認めて、素直に謝ってください。謝ることができるのも、人間が持っている強さだということを忘れないでください。

保護者の皆様、本日はお子様のご入学、本当におめでとうございます。

これまでお子さんを育ててくる過程には、様々な苦労があったかと思いますが、式場に入場してきて、今、前に座っているお子さんの姿はいかがですか。これまでの、保護者の皆様のご努力と深い愛情によりここまでお育てになられたことに、心より敬意を表します。お子さん方は確かに三中でお預かりいたします。

結びに、ここにいる新入生の将来に幸多いことを願ひまして式辞といたします。

## 教職員の異動

### ●転出・退職者

	職 等	氏 名	新 所 属	教科等
1	主幹教諭	佐々木 美緒	杉並区立東原中学校	美術
2	主任教諭	大野 文	台東区立上野中学校	国語
3	教諭	斉藤 隆薫	江戸川区立小岩第四中学校	理科
4	教諭	杉山 里奈	期限付任用満了	国語
5	特別支援学級介助員	松本 優太	退職	
6	特別支援教育補助員	坪松 さくら	退職	

長い間、大変お世話になりました。

### ●転入・採用者

	職 等	氏 名	前 所 属	教科
1	主任教諭	片岡 美佳	江戸川区立南葛西中学校	国語
2	主任教諭	小谷野 美智子	練馬区立貫井中学校	理科
3	主任教諭	佐野 由香里	江戸川区立松江第五中学校	美術
4	教諭	白鳥 康宏	板橋区立赤塚第三中学校	国語
5	教諭	丹野 勇貴	新規採用	三組(美術)
6	特別支援学級介助員	石原 日和	新規採用	

これから、よろしく願いいたします。

### ●主任教諭から主幹教諭への昇任者

1	千葉 優彦(数学)
2	能美 真弓(英語)

令和4年度 教職員組織

	職	氏名	教科等	主任・担当等
経営	副校長	中島 成男	経営	
1-A	主幹教諭	千葉 優彦	数学	学年主任
1-B	教諭	小坂 瞭斗	社会	
1-C	教諭	高倉 亜美	保健体育	
1-D	教諭	春谷 康太	数学	
1-E	教諭	宮崎 靖子	理科	進路指導主任・研究主任・道徳教育推進教師
副担任	主任教諭	佐野 由香里	美術	司書教諭
副担任	教諭	白鳥 康弘	国語	
副担任	教諭	宮川 奈那子	英語	
2-A	主任教諭	桑野 真嘉	技術	学年主任
2-B	教諭	小林 知子	家庭	
2-C	教諭	阿久津 汐里	音楽	特別支援教育コーディネーター
2-D	教諭	梅本 拓真	数学	
2-E	教諭	大島 茂	国語	
副担任	主任教諭	小谷野美智子	理科	
副担任	教諭	加藤 恵	英語	
2年	非常勤教員	小野 博志	社会	
3-A	教諭	金子 輝	保健体育	
3-B	主幹教諭	加藤 雅樹	社会	生活指導主任・いじめ防止対策委員長・不登校対策委員長
3-C	教諭	矢島 和澄	理科	
3-D	主幹教諭	能美 真弓	英語	学年主任
副担任	主幹教諭	齊藤 雅之	英語	教務主任
副担任	主任教諭	片岡 美佳	国語	
副担任	教諭	衛藤 翔大	数学	
3年	主任教諭	山本 康子	養護	保健主任・食物アレルギー対応委員長
1-三	教諭	丹野 勇貴	特別支援学級	
2-三	主任教諭	鎌田 律子	特別支援学級	
3-三	主任教諭	平岡 一志	特別支援学級	三組主任

役職等	氏名
事務主事等	古谷 淳
	坂入 美幸
栄養士	金山 桜子
用務主事等	眞野 晴美
	松尾 勉
	鈴木 育子
学校司書	中山 理恵
特別支援教室専門員	藤田 洋子
特別支援教育支援員	金子 真理
特別支援教育補助員	竹守 晴美
スクール・サポート・スタッフ	山根 由子
スクール・カウンセラー	平野 学
心理専門相談員	眞澄 徹
特別支援学級介助員	石原 日和
巡回心理士	塚本 文子
副校長事務補佐	二瓶 栄治郎
NEA	<今後決定>

時間講師	
氏名	教科等
渡辺 悟	社会
種部 志保	三組音楽
工藤 由紀子	三組美術
向井 加寿子	保健体育
向井 加寿子	三組保健体育
桑原 幸子	三組家庭
小島 祐子	英語
小島 祐子	三組英語

●保護者・地域の皆様へ

今年度も全教職員で「一人一人の子どもを大事にする」を基本理念として、全力で教育活動に取り組んでまいりますので、ご支援・ご協力賜りますようお願いいたします。